

4会合ぶりに政策金利を据え置いた1月FOMC

- 1月FOMCは昨年7月会合以来の金利据え置きに
- 反対票2票と、委員間で意見の乖離は若干縮小
- 次回の利下げは早くとも6月会合以降の見通し

■ 事前予想通り、政策金利は据え置きに

1月27-28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、昨年7月会合以来となる金利の据え置きが決定され、政策金利であるFF金利の誘導目標は3.50-3.75%で維持されました。前会合の0.25%ptの利下げには、0.5%pt利下げ1票、据え置き2票の計3票の反対が投じられましたが、今回は0.25%pt利下げ2票と、依然意見の乖離はあるもののその程度は若干縮小しました。声明文では、経済活動が「堅調な」ペースで拡大、失業率には「安定化の兆し」が見られる、と、認識の改善が示されました(図1)。

前回会合の声明文では、金融政策の方向性に関し、「追加調整の程度と時期を検討」、と文言が修正され、金利据え置きの可能性が示唆されていました。またこの間確認された雇用や物価のデータも、ともに大きな下振れや上振れが無かったため(図2)、金利据え置きは市場で確実視され、この予想通りの結果となりました。このため、28日の米国市場は10年国債利回り、主要株価指数がほぼ変わらず、ドルは堅調と波乱なく推移しました。

■ 政権からの圧力続くも金利は当面据え置き

会合後の記者会見でパウエル連邦準備理事会(FRB)議長は、「インフレの上振れリスクと雇用の下振れリスクは後退した」、「追加調整の程度と時期を決定するのに有利な立場にある」と述べ、当面様子見を続ける姿勢を示しました。1月11日に、司法省より大陪審への召喚状が届いたと同議長が公表してから最初の会見となった今回、これに関する質問があり、また今年5月の議長の任期切れ後も、理事としてFRBに残り続けるのかとの質問もありましたが、ともに回答は控えられました。

早ければ年明け早々にでも、とされていた次期議長人事は未発表のままです。その候補を巡り足元では、最有力候補がウォーシュ氏から米ブラックロック幹部のリーダー氏に移るなど、状況は非常に流動的です。次期議長人事含め、トランプ政権からの利下げ要求など、FRBへの圧力は続く懸念されますが、幸いながら現下の経済環境は、政策効果を見極めるための時間的猶予が得られる状態にあると推察されます。早くとも次の利下げは6月以降と市場が予想しているように、FOMCは当面、金利据え置きを継続すると見込まれます(図3)。(渡部)

【図1】景気や雇用の認識を改善し金利据え置きを決定

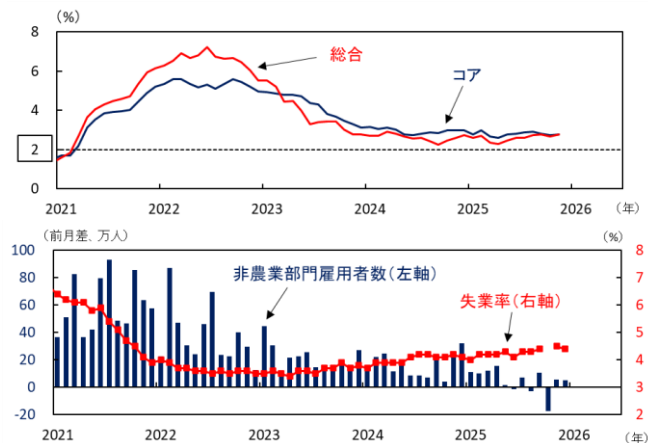
FOMC 声明文の主なポイント(前回との比較)

	前回(2025年12月)	今回(2026年1月)
景気認識	・入手可能な指標は、経済活動が緩やかなペースで拡大していることを示唆 ・今年の雇用の伸びは鈍化し、失業率は9月までわずかに上昇、より最近の指標はこれらの動向と一致 ・インフレ率は今年初めから上昇しており、依然としてやや高い水準にある	・入手可能な指標は、経済活動が 堅調 なペースで拡大していることを示唆 ・雇用の伸びは 依然低く 、失業率は 安定化の兆し を示している ・インフレ率は依然としてやや高い水準にある
リスク判断	・経済見通しに関する不確実性は依然として高い ・ここ数カ月で雇用に対する下振れリスクが高まったと判断	・経済見通しに関する不確実性は依然として高い
政策決定およびその方向性	・フェデラルファンド金利の目標誘導レンジを0.25%ポイント引き下げ、3.5%~3.75%に ・フェデラルファンド金利の目標誘導レンジの追加調整の程度と時期を検討するにあたり、今後入手するデータ、変化する見通し、そしてリスクバランスを慎重に評価	・フェデラルファンド金利の目標誘導レンジを3.5%~3.75%に 維持 ・フェデラルファンド金利の目標誘導レンジの追加調整の程度と時期を検討するにあたり、今後入手するデータ、変化する見通し、そしてリスクバランスを慎重に評価
決議	・ミラン理事は0.5%の利下げ、シュミッド総裁、グールズビー総裁は金利据え置きを求め、それぞれ反対票	・ミラン理事、ウォーラー理事は0.25%の利下げを求め反対票

出所) FOMCより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】金利据え置きを後押しした雇用や物価の安定

インフレ率(PCEデフレーター、前年比)と雇用環境

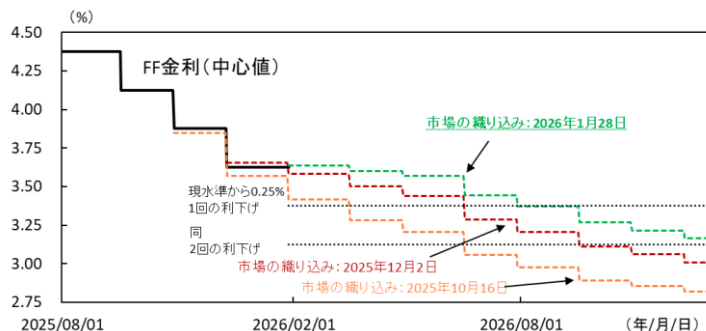


注) 直近値はインフレ率が2025年11月、雇用者数と失業率が同年12月。
インフレ率のコアは、総合除く食品・エネルギー。

出所) 米商務省、労働省より三菱UFJアセットマネジメント作成

【図3】金融市場は当面の金利据え置きを予想

政策金利と金融市場の先行き見通しの変化



注) 直近値は2026年1月28日。FF金利の実績は誘導目標レンジの中心値。
市場の織り込みはFF金利先物による。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会